



山口県本部版

NO 311

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

山口県本部

〒754-0004

山口市小郡金堀町

21番の1

林洋武方

電話&FAX

083 (972) 3987

日本政府は核兵器禁止条約の批准を！！

“国民平和大行進 山口県庁前集会”

7月25日(木) 9時～9時30分その後、

県庁職員と共に広場を行進しました。

治安維持法とは何か 目次

はじめに

I 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟とは

II 「治安維持法」とは

(I) 最悪、最強の治安、弾圧法

治安維持法：戦前の日本において国民の基本的な権利や思想、信条、表現の自由や政治活動の自由などを徹底的に抑圧した「治安・弾圧法」の一つ、その中でも「最悪・最強」の治安・弾圧法です。侵略戦争遂行のための最悪の武器

(2) 治安維持法が「現代の悪法」といわれるわけ

治安維持法までは「行方不明」を処罰したが、治安維持法は「思想者」までも罰した。「法違反」の認定は取締り機関(特高警察)の恣意的裁量次第。目的遂行罪/残虐な拷問とセツトの奇烈な取り調べ/内通者(スパイ)の育成と重用/拘留期限が切れても、刑罰が満了しても放免しない(二回、三回、予防拘禁)/最終的に戦争遂行の陰謀となる、切のものを「犯罪」として取り締まった/結果として、膨大な犠牲者(被害者)を生み出した

(参考) 2018年8月18日放映NHK ETV特集

III 今も生きている「治安維持法」

(1) 敗戦後も、日本政府は治安維持法の特高警察を維持

(2) 1945年10月・11月により治安維持法・治安警察法を廃止

(3) アメリカの対日占領政策の転換、日本は事実上の従軍国へ

(4) 高まる労働運動、国民弾圧のレッドパージと諷刺事件

(5) 「治安維持法」廃止後も、反省も謝罪もない自民党政権

(6) 戦後も政治的影響力を持ち続ける特高警察

(7) 戦後の弾圧法規と復活した「治安維持法体制」

IV 21世紀を平和と人権の世紀とするために

「治安維持法」関連学習資料

治安維持法/治安維持法中改正緊急勅令/思想犯保護観察法/新治安維持法/ボツダム宣言(英・中・三国) / 勅令575号(治安維持法の廃止に関する件) / 勅令730号(政治犯入寸の資格回復に関する件)

治安維持法学習年表

映像(教育資料・動画・番組) / 書籍・教材

*表紙の写真は、国会議事録(2024年5月13日)であいさつする安倍良一さん

2025年は治安維持法公布100年同盟「学習テキスト」で学習しよう！

今も生きている河上肇の足跡

その5

河上肇記念会全国世話人 加藤碩(ひろし)

第三章 理論から実践へー
嘘のない直情的で率直な優れた資質

理論から実践へという話に進みます。京都学連事件は、河上が京都帝大で教鞭をとるようになって、十七年目に治安維持法適用の第一号事件として起こりました。

学生の運動団体ということで、学生社会科学連合会が全国的に大学と旧制高等学校の、社会的に目覚めた学生によって組織されたのが一九二四年九月(大正十三年)のことです。帝大を中心に京都市内の大学や高校が主力だったようです。

こうした学生の進歩的・革新的な動きを危険だとみていた天皇制警察の当局は、翌年の一

九二五四月に成立したばかりの弾圧法、治安維持法を適用してその年の十二月から翌年の一月にかけて京都の学生を檢舉しました。

さらにその翌々年の一九二八年二月の「最初の普選」といわれた総選挙で、河上肇は京都の山本宣治と香川の大山郁夫の応援に駆けつけるわけですが、特に大山郁夫の応援演説の中に極めて危険な文言があったということで、京都帝大経済学部教授会は彼に辞表の提出を求めることになります。そして、一九二八年四月十六日に河



新労農党の九州遊説(大山郁夫と河上肇 1929年12月)

上は辞表を教授会に提出します。この辞表提出の後、河上は「なぜ、自分は京大の教授を辞めたか」ということを当時の京都帝国大学新聞に書くわけですね。これがなかなかの名文なのでご紹介したいと思います。

「かかる時代になればなるほど経済学の自由なる科学的研究は、様々な敵に出逢わずにはいられない。『経済学の領域においては自由なる科学的研究は、他の総ての領域における同一の敵に出会うのみではない。経済学の領域の取り扱う材料の特殊なる性質のために、人間の心の最も激しい、最も狭量な、最も意地悪き情念が、私的利益のフリーー神(復讐の女神)が経済学の敵として戦場に呼び立てられる』とマルクスも言っている。この間にあって、真実に学者の任務を果たさんことは、容易ではない。階級闘争が

激烈になればなるほど、如何に多くの有力な学者が、知らず識らずのうちに、権力階級に向かつて媚を呈するに至ったかは、外国の学史が明白に我々に教へているところである。私は幸か不幸か、この最も困難なる学問の領域に身を置いたために、最初から特別の覚悟を必要とされた。私は何よりもまず心理を念とせねばならぬことを固く心に誓った。天分の乏しき是如何ともし難いが、ただ俗念のために自分の学説を少しでも左右することがあつてはならぬと、この事をのみ常に心に掛けた。かくて私の学問は――正直にいへば、恐る恐る――次第に一定の方向に進んだが、私が斯かる進路を採ることを余儀なくされたのは、歩一歩、主観的には私の研究の不可避的な結果である。だから私の現在の学問的立場が常識的に大学教授た



京大を追われた頃
1928年

る地位に適さぬといふならば、それは私から云ふと、私が何とかして大学教授たる責任を忠実に果たさんと努力した結果に外ならぬのである。かかる意味において、私は私自身に弁証法的転化をなしたとも言へるのである。」（『自叙伝』）
一一「京都帝国大学を去る」と述べています。

大学教授の責任において、責任を持って真実を研究し、真実を学生に向かって説こうとすればするほど、その当時の帝国大学の教授としては辞任に追い込まれざるを得ないという状況になっていく、しかし私はそのことを恐れずにこの道を進むしかないということを全京都大学人や世間に向かって

主張したのです。

こういう格調高い辞任のこ
とばを大学の新聞に送り付け
て辞職するということになり
ます。そして嵐の街頭に立つわ
けです。だから給料もなくなる
し、社会的地位もなくなります。
しかし河上肇の堂々たるところ、愛すべきところですが、何
のけれん味もなく、社会的地位
をなげうって真実の側に立つ
たわけです。

そしてさっそく大学の門を
出ると、大山郁夫たちが東京で
労働者農民党を立ち上げる場
に、はせ参じることになります。
当時共産党は非法法でしたか
ら、労働者農民党という大衆政
党を組織して、労働者農民の要
求をかちとっていくためにた
たかう、という方針をとってい
たわけですね。ぜひ東京に来て
ほしいという要請が来ます。河
上は、とるものもとりにあえず帯

を締め、袴をはいて出かけよう
とします。その出発しようとし
る河上の袴に取りすがって、奥
さんが「あなた、いかないほう
がいいんじゃないですか」とい
って止めるわけです。このあた
りは演劇を見ているようで大
変面白いので『自叙伝』の紹介
をいたします。

「私がいいよ立とうとする
時、筆筒の置いてある階下四畳
半で、着物を着替えながら、袴
を着けたら、家内はまた思い
出したように、私の袖をおさへ
て、上京は見合わすわけには行
かぬかと云い出した。その瞬間、
私は癩癩を破裂させて、何を分
からんことを言うかと怒鳴り
つけた。私の悪い癖だが、一中
略—私自身が出たくなくて困
っていたのだ。出たくはないが、
出なければならぬという義務
感があって、それが私を押し出
そうとしている、その力に押さ

れ押され、やつと奮発して立つ
たところなのだから、それを傍
から止められると、じつに遺る
瀬ない気がして、始末ができな
くなったのである。」（『自叙伝』）
一二「昭和三年、静かなる書齋
生活の終焉」

分かるような気がするので
すね。勇気をもって、困難だが
それを突破するような実践に
踏み出さなければならぬとい
きに、しかし困難な事態だけに、
行きたくないなあというよう
なことは、間々あるじゃないで
すか。そんな時に配偶者など身
近な人から「行かないでほしい」
などと言われると、「いつその
ことサボってしまおうか」とい
うようなことが気分としては
起ることがあります。その気
持ちは実にリアルに描かれて
います。遺るせ瀕無い気持ちな
んだが、やめるわけにもいかな
い。

（つづく）

私の戦争体験 北朝鮮の難民であった頃(8) 林洋武

浮島丸事件と洪タイホの演説 反日感情の高まり

10月のある夜、洪タイホ保安隊長が武装した兵を連れて、やって来ました。集会所の大広間に布団など片隅によせられて日本人全員を集めました。はじめに浮島丸事件についての報告でした。浮島丸事件とは8月24日、日本から帰国する朝鮮人を満載した浮島丸が舞鶴沖で機雷に触れて沈没しました。日本周辺の海は米軍の投下した機雷がいっぱいの方々でこうした事故が起きていました。しかし、浮島丸事件は夜ハッチが開かれず、徴用された朝鮮青年が千名近く犠牲になったと伝えられました。日本人の陰謀だと全朝鮮で反日感情が一気に高まりました。街に出ていた日本人が石を投げられたとか子供が訳もなく殴られたとか緊張状態が続いていました。洪タイホはそのことに触れた後、日本人が朝鮮の独立を奪い過去三六年間勝手に振る舞ったことを激しく糾弾しました。「日本人は朝鮮の国王を奪い土地と資源と国語と人命を奪った。あげくには人の姓名まで勝手に変えた」。「おれは洪タイホだが、安田と名乗らせられた。」と激しい演説を行いました。私の兄弟たちもこの演説をよく覚えていましたが私は安田さんを慕っていただけに一番詳しく覚えていました。

た。

わが家では日中戦争が始まった昭和12年父が再度の軍事招集で兵隊にとられて、母が一人で農園の経営をしなければなりません。私生まればかりの赤ちゃんで姉もまだ三つ、その上一夫が中学二年になるとき結核に倒れて平壤の病院に入院していました。そのとき朝鮮人の手伝いを一人は洪タイホをもう一人はチーネ(李さん)と呼ぶ娘を雇いました。それぞれ太平洋戦争が始まる前に父が召集解除になり帰宅するとわが家をやめて安田さんは面事務所の職員にチーネは家業に戻りました。母も二人がよくやってくれたと感謝していましたし私も二人によくついていました。その安田さん(洪タイホ)は「おれの父は万歳事件で日本人に殺された。そのため鉄道員にも官吏にもなれなかった」とも言いました。万歳事件というのは1919年(大正8年)朝鮮全土で朝鮮の独立運動が広がり全土で七五〇〇人以上の朝鮮人が殺されました。順安でも四回にわたり集会所が開かれ日本の軍隊によって鎮圧され数名の死者が出ました。その犠牲者の一人に安田さんの父親もいました。安田さんは子供でしたが、「万歳事件の反逆者の子供」と言うことでまともな就職ができませんでした。

その事件のあった後父は保安隊に逮捕されましたがそれは後説明します。

(つづく)